

今日は先週の金曜日と日曜日に体験した、結婚式とお葬式についてお話ししましょう。

私のインドネシア語の先生の友達（日本人男性）とバリ人女性の結婚式に幸運にも参加することができました。

私は正装のクバヤ（レースの長袖オーバーブラウスみたいなものだけど、完全にシースルー）サロン（巻きスカート）腰に巻く

スレンドン）をあわただしく調達。クバヤは縫ってもらいました。ぼられたけど日本円で1200円です。現地人に言わせると

急いでも600円だそうです。サイズは測るけど仮縫いもせずに1日でできました。

さすがにシースルーは困るので、その下にはひもなしのキャミソールとウエストニッパーを身につけました。



さて当日は伝統的なバリスタイルの結婚式で新婦の家が会場です。

受付で名簿に記帳して、その横に置いてある箱にお祝いのお金を封筒に入れて入れます。

お祝い金はつながりによって違うそうですが、ちょっとした友達なら5万Rp（ルピア）か10万Rpです。

日本円では500円か千円です。

記念品の扇子、飲み物、お菓子を受け取って奥へ進むと、庭には簡素なプラスチックの椅子がたくさん並

べてあり、

人々は勝手気ままに座っていました。正装のクバヤも様々で、単なる木綿のクバヤを着ている人、同行した先生のように

ジーンズに少しだけおしゃれなTシャツの人、まったくの普段着の人までいます。（結果、私が一番派手でした）

新郎、新婦はと見ると、写真で見たことのある古式豊かな服装です。頭には金色に輝く独特の冠をつけ、黄色のサロンに黒の長袖、

丈の長い上着をまとった新郎、新婦も同じように金色のごてごてした冠をかぶり、新郎の上着と同じ材質のサロンに日本の帯のようなものを

腰に巻いています。

式はヒンズー教徒の家ならどこの家にもある、彼らがお祭りをするためにどうしても必要なステージみたいな所で行われていました。

残念なことに、私たちは送られて到着したので、ほとんど終わっていて、家の出入り口で儀式を行うところでした。

ヒンズー教の教えでは「神様には善の神様だけではなく、悪の神様もいる。だからお供えは家の至る所

にする」という考え方があります。

そこで、地にお供え物を置いて、彼らはそこを3周しました。(その後は野良犬があさっていたのが印象的でした)



その後はバイク方式でお食事。バリ人がよく使うアタ？(度忘れ)で編んだかごに蠟紙を敷いて、そこに好きな食べ物を入れて頂きます。それらのことが司会者がいるわけでもなく、なんとなく適当に時が流れていく中で行われます。

ヒンズー教のお経がスピーカーを通して流れてくる中で、私は新郎のお母様にお聞きしました。

「本来なら婿側の家でも儀式があるけど、日本でするわけにいかないの、徒歩3分の所にあるビーチを家

に見立てて儀式をしました」

とのことでした。

朝の9時から夕方まで続くという宴を、私たちは早々に引き上げました。夕方にはお悔やみに行かなければならなかったのです。